

令和2年度 学校関係者評価

1 学校教育目標

「世界に通じる学力」と「リーダーにふさわしい人間性」、「健やかな心と体」を備え、
 学びの成果を世界や我が国、郷土の発展に還元できる自立した生徒の育成

2 年度の重点目標

- 生徒一人ひとりの確かな学力の向上と進路実現を図る。
- 主体的に行動する姿勢、他を思いやる心を育てるため、経験・体験を通して「実感」させることを重視した教育活動を展開する。
- 心身共に健康な生徒の育成を目指す。
- 教職員の資質向上を図り、働きやすい職場、開かれた学校づくりに努める。

3 学校関係者評価 (A非常に良い(85%以上) B良い(70~85%) C概ね良好(50~70%) D要改善(50%未満))

NO	評価の観点	評価項目	評価内容	達成度	学校関係者評価
			具体的方策・評価の際の着眼点の例		
1	学校運営	組織的の学校運営	学校運営について教職員の共通理解を深め、各学年と部の連携を強化し、協働体制を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・校務運営委員会を中心とした共通理解の深化 ・各種委員会の活性化 ・教職員間のコミュニケーション活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行政も経営も連携や連係が大切な時代。会議や議論が下手な日本。様々やり方への挑戦を期待している。部活動の外部プロ指導者への委託や授業の新しい分野への専門家の活用促進を期待する。 ・生徒に対する先進的な取組み・事業展開をされておられる一方で、先生サイドの環境整備面の遅れがあるように見受けられました。 ・先生方に必要な業務管理ソフトや効率化のツールの導入・活用により、先生の勤務満足度を上げ、生徒に向き合う時間等を確保して頂ければと思います。 ・歳を重ねるにつれ、ふるさとの良さを痛感します。豊岡のこのとりへの取組み、ジェンダーギャップや専門職大学の取組みなどへの理解を深めることが、母校への愛情に繋がると思っています。但馬を愛する生徒を増やして頂ければ幸いです。 ・SSHやSTEAM教育・探究的学びなど新しい取組みを積極的に取り入れ生徒の能力向上や進学に好影響をもたらしている。 ・一方で先生方の負担が増加し、学習指導や面談の時間が少ないという声、生徒自身が余裕がないという声も記されており、バランスを保つ必要がある。 ・コロナ禍での教育実践は、非常に困難であったと推測する。
			会議の効率化等を図ることによって教職員が生徒と向き合う時間を確保し、心の通い合う学校づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の適正化 ・会議の効率化 ・各種様式及び手続き等の見直し ・事務室との連携（経費節減） 	B	
			SSH・STEAMモデル校事業を積極的に推進し、理数科のさらなる充実と学科改変に向け検討を進め学校全体の教育活動の一層の活性化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・広報の充実 ・定員の充足 ・共通理解と協働体制の確立 ・課題研究、海外研修をはじめ各種の取組の充実 ・四期指定への対応と今後の展望についての検討、文理融合型カリキュラムの検討 	B	
			学校の情報を積極的に発信するとともに、学校評議員の活用や中学校、家庭、地域社会との連携を通じて、信頼される学校づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校通信及びホームページ等の改善充実 ・学校評議員の活用 ・PTA及び家庭との連携強化 ・中学校との連携強化 ・ふるさと貢献活動事業の充実 	B	
5	教育課程の改善	教育課程の改善	学習指導要領改訂と学科改編をふまえて指導力の向上と教育課程の刷新を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会議、教科主任会、カリキュラム委員会等での継続的な検討 ・先進事例の研究 ・具体的な改善策の策定 ・指導法と評価法の研究推進、文理融合型教育課程の研究 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性・らしさ（個性）を尊重できる仕組みや意識強化を期待する。 ・教育課程の改善の達成度が低い、評価指標の捉え方（達成度合い）が先生により差があるのではないのでしょうか。もしくは到達目標が高いのか。 ・オンラインでの遠隔実験は素晴らしいと感じた。企業でもウェブでの会議・セミナー・情報交換が、この一年で活発となった。学校教育でも一層のオンライン教育の活用を期待する。 ・いずれの評価も問題ないと感じる。
			基本的な生活習慣を確立させ、きめ細かな学習指導を通じて基礎基本の確実な定着を図り、授業への集中力と主体的な学習態度を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、課題テスト、補習、模擬試験等の計画的な実施 ・個人面談の充実、家庭との連携 ・学年と各教科、学習指導部との連携 	B	
			STEAM教育実践モデル校として、新しい時代のリーダーを育成するための事業を研究・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用した授業の実施 ・既存の授業の発展的充実 ・STEAMルームの設置 ・STEAM教育に関する新しい科目の設定 	C	
8	生徒指導の充実	生徒指導の充実	他者を思いやる心や人権を尊重する心を持った、礼儀正しく品格のある生徒を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、いじめ、体罰、自殺等の未然防止（アンケートの実施、面談の充実、家庭との連携強化） ・学年と生徒指導部の連携 ・迅速な組織的対応 ・挨拶、掃除、時間厳守励行等の指導 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に対する思いも2極化、素行の良くない生徒も少なく、個人的には自由に（入らない選択）してやる時代と考える。 ・記述意見にあった、先生の挨拶に対する姿勢は気になることである。 ・コロナ禍で、メンタル的にも不安定な要素が多い中、工夫し乗り切れている。
			学校行事や部活動に積極的に参加させることで、健全な心身の育成と社会性の涵養を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動、ホームルーム活動の活性化 ・学校行事の充実 ・学習と部活動の両立、部活動の活性化と再編の検討 	C	
9	特別活動	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動、ホームルーム活動の活性化 ・学校行事の充実 ・学習と部活動の両立、部活動の活性化と再編の検討 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の再編には賛成だが、生徒の選択の幅が狭くなるのと、廃部した部を再開する可能性は低い。

NO	評価の観点	評価項目	評価内容		達成度	学校関係者評価
			具体的方策・評価の際の着眼点の例			
10	進路指導	キャリア教育の充実	自らの生き方を考えさせ、能力・適性、興味・関心に基づいて主体的に進路を選択し決定できる能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学模擬授業、大学見学、進路講演会等の充実 ・新入試制度について、迅速かつ正確な情報提供 ・人材養成プログラムの推進 ・就業体験事業の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを知る、深掘りする時間がない時代になってしまいました。会話で共有するテーマもなくなりボーと考える時間を持たない若者。作者の考えや大人の喜ぶ言葉運びは優秀。自分の事を知る大切さ、知り方を伝えたい。 ・保護者として家庭でも意識して取り組んでいきたい。 ・非常に熱心に取り組まれている。
		進路実現の支援	自己の適性をふまえて明確な進路目標を持たせる。最後まで努力を続ける指導を行い、進路目標を達成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談の充実、家庭との連携 ・適切な進路情報の提供 ・保護者会、検討会の適切な運営企画 ・学年と進路指導部の連携 		
12	保健安全 教育相談	保健教育 安全教育の充実	健康診断や健康相談に基づく指導を徹底し、心と体の健康についての自己管理能力を高める。生涯にわたり安全に生活できる実践的能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検診や相談の事前事後指導の徹底 ・救急救命法講習会等の充実 ・各種講演会の計画的、効果的な実施 ・保健だよりの発行 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・心が弱まっていると感じています。健康の学びの中、心（気持ち）の関連強化を望む。 ・コロナ禍を、保健安全の意識を高める大きな契機とできるかが問われる。
		教育相談の充実	教育相談を身近なものとし、相談者が利用しやすい環境を整備し、より効果的に指導を行うことができるよう、その活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の確立 ・情報交換と支援体制の充実 ・教職員間の効果的な情報共有 ・教育相談だよりの発行 		
14	教職員の資 質向上	研修の充実	授業公開や職員研修に積極的に取り組み、教職員の専門性と実践的能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開、研究授業の充実 ・職員研修の計画的な実施 ・校外研修等の成果の共有 ・授業研究ユニットによる指導と評価の一体化の研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の授業動画や視覚的に伝わる図や動画をどんどん活用してほしい。 ・問題なし。
15	危機管理	危機管理体制の改善充実	家庭・地域・関係機関との連携を密にした危機管理体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアル、避難所運営マニュアルの改善充実 ・感染症対策マニュアルの作成 ・効果的な防災避難訓練の実施 ・不審者情報の共有と対応の徹底 ・関係諸機関（市防災課、警察、消防署、市教委等）との連携 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・来校者に自然と「こんにちは」が言える高校と、そうでない高校がありということも関わるのかも。 ・有事に備えよろしくお願ひします。 ・コロナ禍という新たな危機管理が加わったのではないかと。